

世界を変えよう基金報告書
第一回 みんなの学会
ユニバーサルな学び 一手話から学ぶ、伝えるということー

1. つくば院生ネットワーク (TGN) について

つくば院生ネットワーク (TGN) は、筑波研究学園都市を活動拠点として学術的なインフラを作る活動を行う学生主体の団体です。2010年の設立以降、主に学术交流・研究発信・教育・人材育成に関する企画を行っています。

2. 今年度事業の概要

事業名：みんなの学会 一手話から学ぶ、伝えるということー

実施日：2020年2月15日（土曜日）

[第1部（口頭発表・手話パフォーマンス）]

第一部では、情報保障※を行った研究発表（および交流）と、手話パフォーマンスを楽しんでいただき、“ユニバーサルな学び”について考えるためのイベントを行いました。

※情報保障：文字通訳、手話通訳、音声通訳ができました

時間：16:00～18:45（15:30開場）

会場：つくばノバホール

参加費：社会人1000円、学生無料

登壇者：<総合司会・モデレータ> 讃井 知（筑波大学 システム情報工学研究科）

<研究発表 口頭発表>

鈴木 佑弥さん（筑波大学 生命環境科学研究科）

#クモ #行動生態学 #自然史研究 #捕食被食系

西野 弘二さん（筑波技術大学 産業情報学科 システム工学専攻 建築工学領域）

#建築 #設計 #課題解決 #少子高齢化 #地方移住者

高木 祐輔さん（筑波学院大学経営情報学部）

#オフキャンパスプログラム(OCP) #イベント

設楽 明寿さん（筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科）

#スポーツ #聴覚障害 #アクセシビリティ

#ユニバーサルデザイン

<手話パフォーマンス> きいろぐみ

手話手話パフォーマンスきいろぐみは1989年旗揚げ。手話に特化したエンターテイメント集団。手話で歌って踊り、朗読劇・子どもショー・手話ライブ・手話ミュージカルなどを全国展開。

『ろう者と手話の立場から、多くのあなたへ夢を！』を合言葉に、手話の魅力を多くの人に伝える活動に取り組む。NHK「手話ニュース」「LIFE～人生に捧げるコント」「紅白歌合戦～シン・ゴジラ渋谷来襲！！」「ろうを生きる難聴を生きる」、全国TBS系「ラブレター」、テレ朝系「ドクターX」、KBC「福岡恋愛白書13～キミの世界の向こう側」など出演。テレビドラマ「オレンジデイズ」、ハリウッド映画「バベル」、アニメ映画「聲の形」など手話指導・コーディネーター。モーニング娘。・ケミストリー・上地雄輔・ももいろクローバーZ 佐々木彩夏など、様々なアーティストに手話指導。

[第2部（ポスター発表・交流会）]

第二部では、ご来場者の皆様が行っている研究や学び、地域活動の実践について発表していただきました。ポスター形式の研究発表はもちろん、これまでに取り組んだ課題や手作りの作品などをお持ちいただき、自由な形式で知見交換を楽しんでいただきました。

時間：19:00～21:00

場所：up Tsukuba

参加費：社会人2000円、大学生・大学院生1000円、高校生以下無料

<発表者>

・障がいの有無、所属、年齢専門等に関係なく、小学生から大人までご発表・ご来場いただきました。（公表の許可をとっていないため、個人情報の報告は割愛させていただきます）

・ろうちょ～会

ろう者×聴者がお酒を片手に気軽に交ざり合い、楽しく交流を目的に活動している団体。「声に頼らない会話をしてみよう」をコンセプトに、参加者は手話や筆談、ジェスチャーで声を使わないコミュニケーションをとります。

第二部では、ろうちょ～会をおよびして、来場者の皆さんにも声に頼らない交流をご体験いただきました。

3. 準備および当日様子



障害の有無・年齢・所属等を問わず、「みんなの学会」のコンセプトに共感した仲間
実行委員会を組織。はじめて聴覚障害を持つ人と触れ合うスタッフも多くいました。



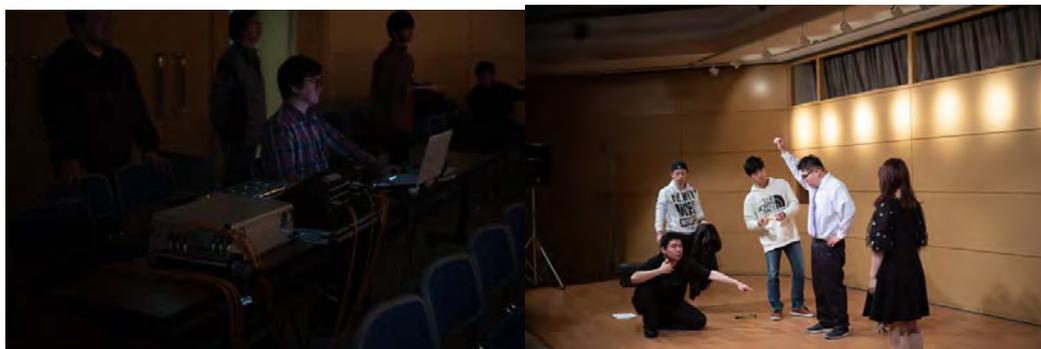
つくば市のコワーキングスペースである Tsukuba Place Lab の場所協賛をいただき、
「みんなの学会」に関わる準備・MTG の際に活用させていただきました



SNS 等の広報では、イベントの準備時の様子等もふくめ多様な関連情報を発信しました。
申し込み制限を行うほど、多くの方に興味を持っていただきました。



第二部の会場となっている up Tukuba を、第二部開始時間までは当日の実行委員会事務局として利用させていただきました。



プロのパフォーマンス団体をおよびしているため、音響・照明のリハーサルは前日から行いました。なお、こうしたすべての演出機材・人員の準備は実行委員で行いました。



当日は多くの方におこしいただき、会場は満員になりました



第一部では、聴者の発表には文字通訳および手話通訳が同時通訳できました。



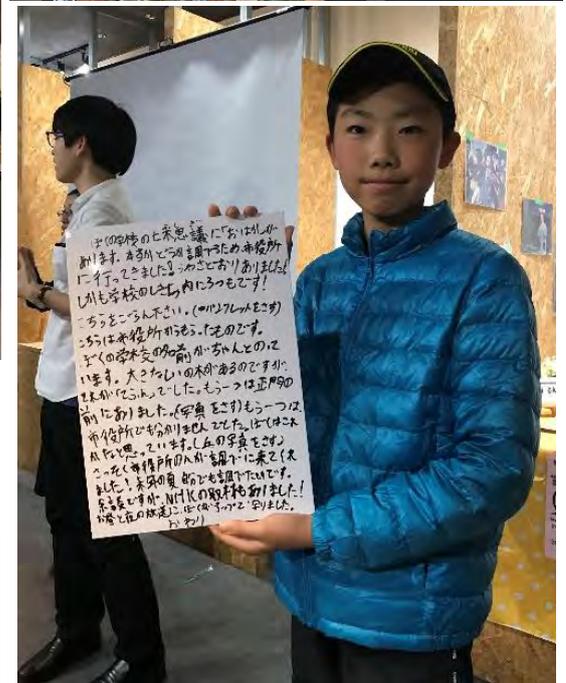
ろう者の発表では、必要に応じて音声通訳ができました。



受付は手話を学ぶ学生および教職員が対応しました。



きいろぐみパフォーマンスでは“科学・研究”というテーマに沿った演出を考案いただき、会場の方を多く巻き込みながらパフォーマンスを行っていただきました。



第二部では、ホテルベストランドの La Porta さんのお料理をいただきながら、様々な研究や取り組みの発表をしていただきました。小学生の自由研究から、地域活動、大学院生や研究者の研究発表、社会人の方の自主研究など様々なご発表がありました。発表者の方にはそれぞれ「みんなに分かり易い」工夫をしていただきました。



交流会ということで、研究以外にも盛り上げていただく歌や踊り、
趣味の活動などをご披露していただく場面もありました。



「ろうちょ〜会」の方のリードの元、「ことばに頼らないコミュニケーション」を全員で
体験する時間もありました。手話、筆談に加え、そうしたものができない・用意がない時
のコミュニケーションについても学びました。



第一部の発表者およびパフォーマンス団体「きいろぐみ」の方もご参加いただきました。



第二部参加者の集合写真



スタッフおよびパフォーマンス団体「きいろぐみ」の集合写真

4. 活動の達成度

企画の実施に当たっては、筑波大学・筑波技術大学・筑波学院大学の三大学の学生が中心となり、実行委員会を組織しました。今回のイベントテーマに合わせて、地域の手話サークル、文字通訳ボランティアの方とも協働し準備を行いました。また、資金調達の一環としてクラウドファンディングを行い、目標金額の120%にあたる85万円以上（100人以上）のご支援をいただくことができました。

イベント当日の来場者は一般の方を広く想定し、県外からもご来場いただきました。来場者数は第一部・第二部のべ150名程度いらっしゃいました。（イベント当日前に会場の定員を上回る申し込みが見込まれたため、途中で参加申し込みを締め切りました。）

メディア取材も多くいただきました。またその影響から多数のイベントにも登壇させていただきました。（詳細は後述）研究会での事例発表ではベストプレゼン賞を受賞しました。

新しくチャレンジングな取り組みでしたが、イベント時は会場の一体感も強く終始感動的な雰囲気がありました。終了後には次回開催の期待のお声を多数いただいておりますので、今回の良さを引き継ぎながらも新しい「第二回 みんなの学会」を開催できるよう準備をしてまいります。

<メディア掲載情報>

- 2020年1月8日 つくば経済新聞
つくばで全編手話通訳付きの「みんなの学会」 「さまざまな学問分野に触れてほしい」
『Yahoo! ニュース (同日)』
- 2020年1月20日 朝日新聞
大学院生ら研究発表 手話通訳交え／つくばで2月
- 2020年1月22日 NEWSつくば
手話パフォーマンス招く資金を募る「みんなの学会」来月つくば開催で
- 2020年1月24日 つくば市民活動のひろば
＜分野や障がいの有無を超えた学びを ーつくば院生ネットワーク①＞
- 2020年1月27日 つくば市民活動のひろば
＜手話の楽しさをまずは知ってほしい！ ーつくば院生ネットワーク②＞
- 2020年1月28日 つくば市民活動のひろば
＜ほんとうの「科学のまち」を目指して ーつくば院生ネットワーク③＞

<イベント等登壇情報>

- 12月1日 日曜4限総合的な学習の時間【みんなの課外活動発表会】@Tsukuba Place Lab (讃井・青木)
- 12月1日 Friday Night Bridge @Tsukuba Place Lab (讃井・福丸・青木)
- 12月7日 (一社)日本サイエンスコミュニケーション協会 年会@三鷹ネットワーク大学 <「ユニバーサルな学びに向けた挑戦」> ベストプレゼンテーション賞受賞
- 1月 KEKサイエンスカフェ @BiVi つくば (10日 讃井・青木) (24日・31日 青木)
- 1月17日 つくば100人カイギ @up Tsukuba (讃井)
- 1月31日 ラヂオつくば「つくば You've got 84.2(発信 chu)！」(青木・高木)
- 2月5日 ラヂオつくば「W@t's? Tsukuba！」(讃井)

5. 今後について

第一部来場者のアンケートを現在集計中です(回収率90%超)。今後アンケートのデータを分析し、査読紙に投稿できるよう準備を進めています。